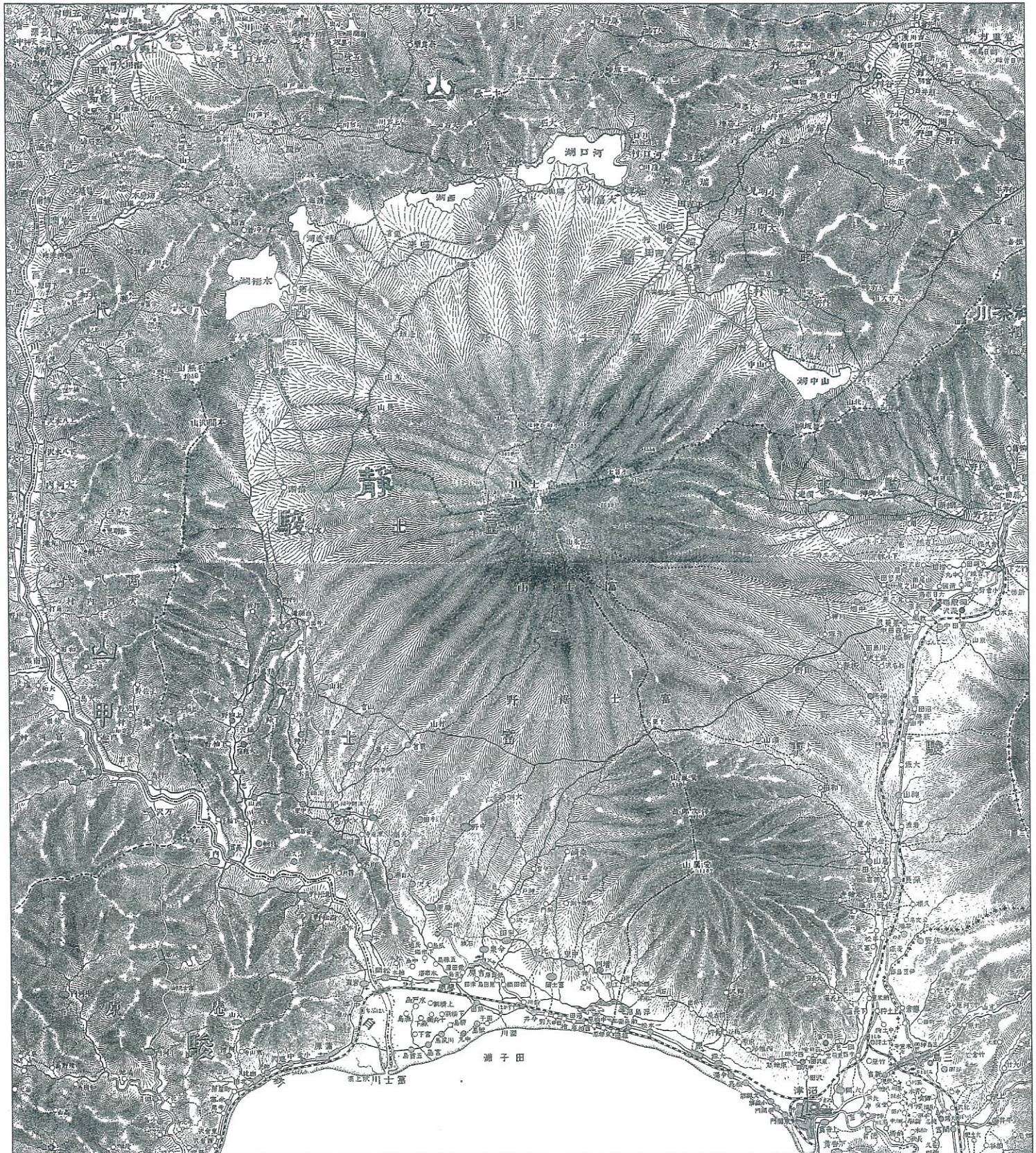


ケバ方式による地形表現

輯製図

■20万分1^{しほう せいす}輯製図 「甲府」明治27年修正、「静岡」明治34年修正

明治20年代、陸地測量部によって作成された20万分1図です。「伊能図」を基礎資料として、各種地図成果を利用して輯製（集成）編集しています。黒一色の表現で、地形は斜照式のケバ方式で描画されています。ケバとは地形の最大傾斜の方向に表示した短線で、太さ・長さ・密度等を変化させることで傾斜の方向・緩急等を示しています。



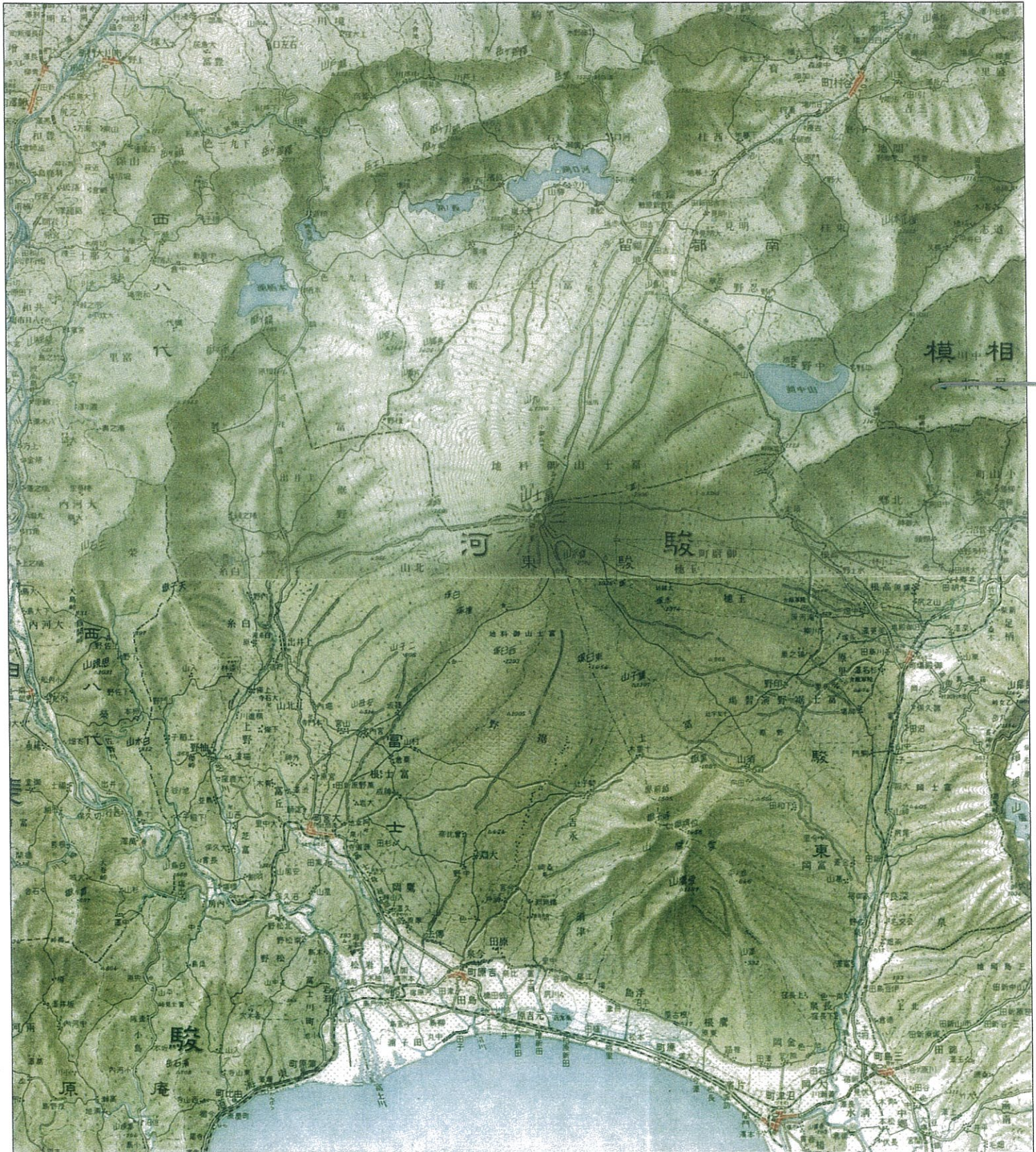
(※400%に拡大)

色彩豊かな地図表現 帝国図

■20万分1 帝国図

「甲府」大正5年製版、「静岡」大正7年製版

明治30年代後半から、三角測量の成果をもとに実測した5万分1地形図から編集する方法で全国整備が進められた20万分1図です。黒1色の輯製図に対して、色彩豊かな赤・藍・黒・緑の4色刷りで作成されています。地形は、現在の20万分1地勢図と同じように等高線と陰影（以前は「ぼかし」や「くんせん（うんせん）」と呼ばれていました）の組みあわせで描画されています。



陰影段彩図の原点

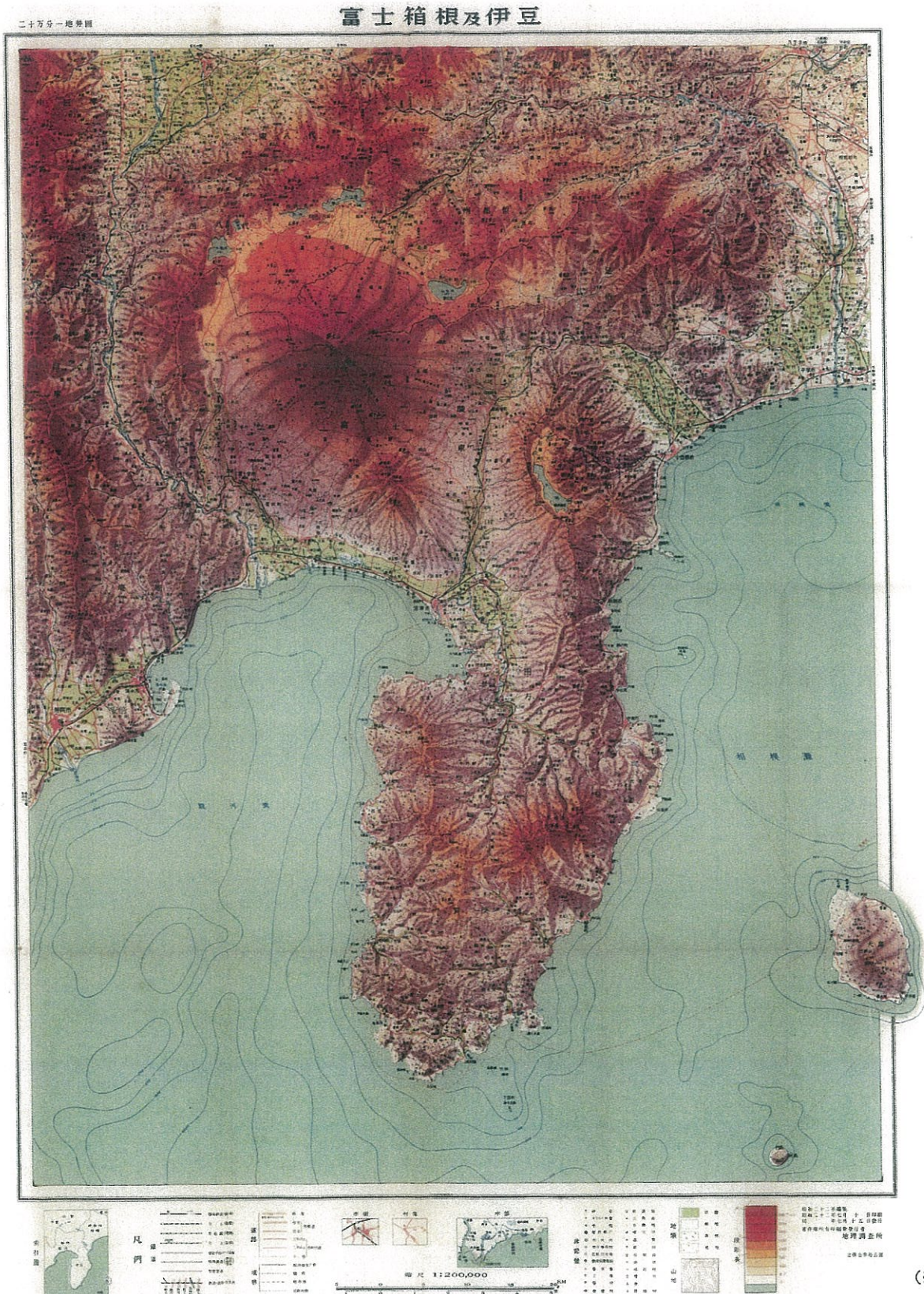
図式検討のための試験図

20 万分 1 地勢図「富士箱根及伊豆」

昭和 22 年（1947 年）編集

この地図は、戦後、帝国図に代わる新しい 20 万分 1 地勢図作成のために編集された「研究試作図」です。

全体を色彩豊かな見やすい表現にするための転換が図られています。地形を等高線・陰影・段彩を組み合わせた、いわゆる「陰影段彩図」の表現とするほか、注記・数値は左書きに統一、道路・鉄道は管理区分、植生の簡略化等の図式設計がなされています。



(※150%に拡大)

いろいろな地形表現

いまの刊行図

現在、国土地理院が刊行している基本図では、20 万分1 地勢図は等高線と陰影、50 万分1 地方図は等高線と段彩、100 万分1 日本は等高線と陰影・段彩の組み合わせというように、各縮尺によって地形表現を使い分けています。5 万分1 地形図より大きい縮尺の基本図は等高線だけの表現です。ただし、電子地形図 25000 では陰影表示の有無を選択することができます。

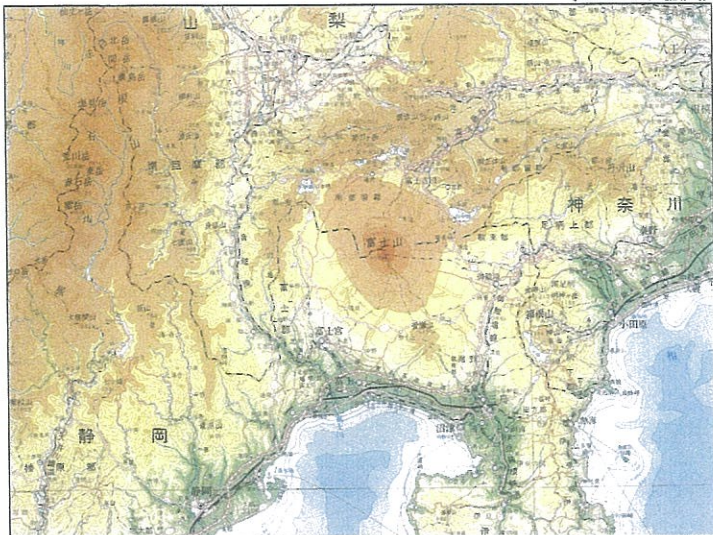
■20 万分 1 地勢図 「東京・横須賀・甲府・静岡」

(※200%に拡大)



■50 万分 1 地方図「関東甲信越」

(※200%に拡大)



■100 万分 1 「日本II」

(※200%に拡大)

